

「南海トラフ海底地震津波観測網完成記念シンポジウム」開催

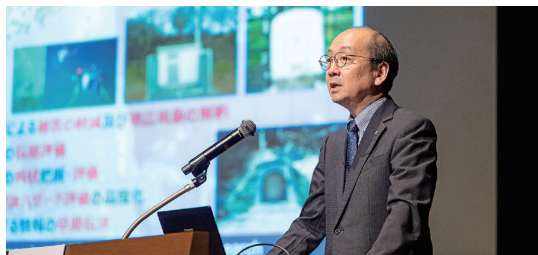
7月29日、東京都千代田区のイノホールにて「南海トラフ海底地震津波観測網完成記念シンポジウム」を開催し、約300名にご参加いただきました。

防災科研 實業理事長の開会挨拶に続き、来賓の文部科学省 研究開発局長の坂本修一氏よりご祝辞をいただきました。続いて、南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）の構築に多大なご貢献をいただいた企業として、日本電気株式会社、NECネットエスアイ株式会社、株式会社OCC、横河電機株式会社、白山工業株式会社、NECプラットフォームズ株式会社、KDDIケーブルシップ株式会社の皆さまへ感謝状を贈呈しました。

基調講演では、香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長／地域強靱化研究センター長 特任教授の金田義行氏にご登壇いただき、「南海トラフ巨大地震震源域の観測監視の重要性—観測、解析、シミュレーションの統合研究の推進—」をタイトルとして貴重なお話をいただきました。金田氏は今後、N-netが南海トラフ巨大地震研究で重要な役割を担うべきであると述べられるとともに、その着実な維持と管理の重要性についても言及されました。

その後、防災科研 巨大地震変災害研究領域の青井真研究領域長がN-netの概要と地震津波観測データの利活用事例などを説明し、N-netデータの利活用に関して今後の展望を述べました。

後半のパネルディスカッション「南海トラフ巨大地震の災害を乗り越える—N-netへの期待—」では、



青井真研究領域長の講演

東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター長の日野亮太氏にコーディネーターを務めていただき、6名のパネリストにご登壇いただきました。自治体、民間企業、学术界などそれぞれの立場から、地震や津波の早期検知と即時予測、南海トラフ地震臨時情報への活用など、社会におけるN-netのデータの利活用について、活発な議論が交わされました。

閉会にあたっては、防災科研 進藤和澄理事よりご挨拶を申し上げ、盛況のうちにシンポジウムを締めくくりました。

パネリスト

- 江渕 誠 氏（高知県 危機管理部長）
- 小平 秀一 氏（海洋研究開発機構 理事）
- 高橋 成実 氏（防災科研 連携研究フェロー）
- 津田 君彦 氏（宮崎県 危機管理統括監）
- 原田 智史 氏（気象庁 地震火山部地震火山技術・調査課長）
- 藤井 大三 氏（西日本旅客鉄道株式会社 鉄道本部新幹線本部 新幹線施設部土木グループ課長）



会場の様子

アンケートにご協力ください

今後の誌面づくりの参考にさせていただくため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

アンケートの回答はこちら

防災科研ニュース アンケート

検索



防災科研ニュース

2025 No.231

2025年12月31日発行

●ご意見・ご感想をお寄せください e-mail : k-news@bosai.go.jp

■発行 国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 企画部 広報課

防災科研ニュース係 TEL.029-863-7784 FAX.029-863-7699

●防災科研ニュースはウェブサイトでもご覧いただけます (https://www.bosai.go.jp/)

ISSN 2758-1195